

東京大学千葉演習林で開催された 第3回国際菌学会議事前菌類採集会

天野 典英

1983年に日本菌学会が第3回国際菌学会議を主催したことは、日本の菌学史を語るときに常に取り上げられる話題であろう。本国際会議に付随して会議開催前に栃木県日光と東京大学千葉演習林、会議閉幕後に富士山でそれぞれ菌類採集会（Foray）が開催された。栃木県日光で開催された菌類採集会については萩原博光氏が日本菌学会報に記録を残されており、富士山での採集会についてはやはり日本菌学会報に採集目録が公表されている。

しかしながら東京大学千葉演習林で開催された採集会についてはきちんとした形で報告されてきていない。私は本採集会の実行委員会委員を務めた関係で、採集会に関わる書類一式を保管しており、どこかに東京大学千葉演習林で開催された菌類採集会の内容をきちんと記録しておくのが自分の務めだと思っていたが実行せずに今日まで来てしまった。

やり残してきたことは順番に実行していかなくはと思う出来事が身近にあったので、まずは地元である千葉菌類談話会の皆さんに、約30年前に千葉県で海外から多くの参加者を迎えて菌類採集会が実施されたことを紹介することから始めようと思い、2012年1月に開催されたスライド会で皆さんに当時の記録写真をご覧頂いた。そして吹春さんからスライド会で紹介した内容を「千葉菌類談話会通信」へ投稿するようにとの依頼があり、採集会の記録を文書化してきちんと残しておく良

い機会だと思い本文を認めることにした。

1983年当時私は東京大学応用微生物研究所の研究生であったが、青島清雄先生から本採集会の実行委員を務めるように命じられた。実行委員会は本郷次雄先生を委員長に土居祥兌先生、鈴木彰先生、根田仁氏、天野典英の5名で立ち上がったが当時東大農学部大学院の院生であった国枝（高橋）さきの氏にも実行委員会に加わってもらった。本郷先生は滋賀におられたことから、土居祥兌先生、鈴木彰先生、根田仁氏、国枝さきの氏、そして天野が開催に向けて実行委員として活動した。そして根田氏、国枝氏、天野の3名が実践部隊として採集場所の選定も含めた日程、宿舍の部屋割り、食事の献立など細かいことまで立案した。賄いを担当してくれた演習林の方々が外人向にどのような朝食と昼食を準備すればよいのかわからないということだったので、海外経験があった国枝氏が中心になって献立を作成した。夕食は外国人ということをやあまり意識せずに学生実習とほぼ同じメニューとした。念のため夕食時にはパンも用意したが、米食が意外と好評であった。採集で世界中を旅している菌学者は食事に関しても順応性が高いようであった。

表1に参加者の名前と国を、図1に参加者の集合写真、図2～7にスナップ写真を示した。参加者は日本を入れて七カ国から33名であった。実行委員長が本郷先生であったため

か担子菌類を専門としている菌学者の参加が多かった。参加者リストを今回改めて整理していてドイツからの参加者が多かったことに驚いている。

採集コースは千葉演習林の方々と相談しながら、異なった林相で採集してもらえるように表2のように設定した。全体を通じて本

採集会は海外からの参加者に好評であった。日本での菌類採集を十二分に楽しんでもらえるように様々な準備作業を実行委員会で行ったことが報われたと思っている。以下本採集会のお世話をされていて印象に残った事柄を列挙しておく。最終日の昼食時お皿に盛ってだされた白いご飯に味が無くてももの足りないと、ソースをかけて食べられたのには驚いた。

表1 参加者一覧

国	名 前	国	名 前
アメリカ	Farr, M.L.	ドイツ	Prillinger, H.
	Goos, R.D.		Trinh, K.T.
	Nisihda, F.H.	日本	Amano, N.
オランダ	Arnolds, E.J.M.		Doi, Y.
	Bas, C.		Hongo, T.
台湾	Lee, P.J.		Kobayashi, T.
	Wang, S.M.		Kunieda, S.
	Wu, J.-L.S.		Miyadoh, S.
	Yen, Z.Y.		Murakami, Y.
ドイツ	Agerer, R.		Neda, H.
	Blanz, P.		Suzuki, A.
	Bresinsky, A.		Yada, T.
	Dickhardt, R.		Yokoyama, K.
	Eger-Hummel, G.	ノルウェー	Ryvarden, L.
	Henssen, A.M.	ブラジル	Bononi, V.L.R.
	Hilber, O.	ベルギー	Demoulin, V.
	Oberinkler, F.C.		

表2 日程表

8月24日	新宿京王プラザホテルからバスで東京大学千葉演習林清澄宿舍へ移動
	夜歓迎会
8月25日	2グループに分かれて菌類採集
	・ 札郷作業所周辺
	・ 浅間山
8月26日	2グループに分かれて菌類採集
	・ 檜木台
	・ 浅間山
8月27日	朝食後バスで誕生寺へ移動、誕生寺の見学ならびに周辺で菌類採集
	海岸沿いの食堂で昼食を摂った後新宿京王プラザホテルへ
	到着後解散

- ・ 最終日の昼食は海沿いの食堂で摂ってもらった。其のときに出発までの僅かな時間に太陽の光を浴びたいと、オランダからの参加者がパンツ一枚になって日光浴をした。そのときはこんな短い時間にわざわざパンツ一枚になって日光浴することもないだろうと思ったが、後年オランダに出張したとき僅かな時間でも太陽の光を浴びたがった彼の気持ちを理解することができた。
- ・ アメリカの Farr 博士がドイツからの参加者と最初英語で会話していたのがいつのまにかドイツ語での会話になっていた。後日彼女の経歴を読んで納得した。
- ・ Farr 博士が変形菌の採集用に持参した小箱(マッチ箱)が足りなくなったので、日本人参加者の有志で小箱を作ってあげた。その小箱には村上康正さんがキノコの絵を描かれた。世界のどこかの標本庫に変形菌が収納されてこの小箱が保管されているだろう。
- ・ ドイツからの参加者がオランダからの参加者へドイツのオランダ侵攻を話題にして語りかけるのを傍で聞いていて、このような場所で話題にすることかと思ったことを今でも鮮明に覚えている。
- ・ 浅間山で鹿の角を見つけてきた参加者がいた。このときの鹿の角は今でも千葉演習林の事務所に保管されているだろう。
- ・ 参加者には浴槽で石鹸を使わないようにお風呂の入りを念のため指導した。

海外の菌学者と短い期間ではあったが寝食を共にする機会をもてたことは、自分にとって大変貴重な経験であり多くのことを学べた。そこでこれからの日本の菌学を背負って立つ若手菌学者に早い時期から海外の菌学者と交流する機会を持って頂きたいとの思いから、日本菌学会あるいは日本菌学会関東支部の若手菌学者の国際学会参加援助のためのオークションに物品提供を行ってきた。

採集会の記録書類と写真、そして日光と千

葉の両採集会に写真家として参加された矢田哲也氏の写真が掲載されている「科学朝日 43 巻 11 号、1983 年」を吹春氏に託してある。ご興味のある方は吹春さんを通じて閲覧頂きたい。

最後になりますが、本採集会を開催するにあたり多くのご協力を頂いた東京大学千葉演習林の皆様には厚く御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。



図1 参加者集合写真



図2 本郷先生と Bas 博士(左の写真)



図5 Nishida 氏、横山先生、国枝氏、Ryvarden 博士



図3 Hilber 博士、本郷先生、横山先生



図6 日本人参加者



図4 Farr 博士と国枝氏



図7 Bas 博士と天野